

# 拉致被害5人が帰国

## 家族と24年ぶりに再会



発行所  
熊本日新聞社  
〒860-8506 熊本市世安町172  
代表 (096)361-3111  
©熊本日新聞社 2002

### 電子速報

詳しくは熊本日新聞  
本紙をご覧ください

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)に一九七八年に拉致され、生存が確認された五人が十五日午後、羽田空港に到着した政府チャーター機で帰国、二十四年ぶりに家族と再会した。東京都内のホテルで二泊し、十七日にはそれぞれの故郷に向かう。日本滞在は二週間程度。

五人とも子供や夫を北朝鮮に残しての一時帰国で、政府はさらに子供たちも含めた永住帰国を要求。国交正常化交渉再開に向け、北朝鮮側の出方を見極める構えだ。

帰国したのは、福井県

小浜市出身の地村保志さん(47)と浜本富貴恵さん(47)、新潟県柏崎市出身の蓮池薫さん(45)と奥土祐木子さん(46)、同県真野町(佐渡島)出身の曾我ひとみさん(43)。

警察当局は、本人たちの同意が得られれば、事情聴取したいとしている。平壤から朝鮮赤十字会の副書記長ら二人が同行し五人の滞在中、東京にとどまる。

拉致被害者の家族らでつくる「家族連絡会」代表で、「死亡」と伝えられた横田めぐみさん(失跡当時(13)の父滋さん(69))は、この日の記

者会見で「六年近く一緒に闘ってきた。わがことのように喜んでいいる」などと語った。

チャーター機は十五日早朝、羽田を飛び立ち同日正午すぎ、五人を乗せ平壤国際空港を出発。機内では、中山恭子・内閣官房参与や「帰国受け入れチーム」の斎木昭隆・外務省アジア大洋州局参事官らが家族からの手紙を手渡したり、デジタルカメラで撮影した家族の映像を見せたりした。

羽田では、安倍晋三官房副長官とともに五人の家族だけでなく、ほかの被害者の家族らもそろつ

て出迎えた。

五人は同日と十六日は都内のホテルに泊まり、横田さんの両親らが肉親の消息などを尋ねる機会も設けられるという。日本滞在中は、政府の受け入れチームのメンバーが五人全員に付き添う。

五人は七八年七月八月に拉致された。地村さんと浜本さん、蓮池さんと奥土さんの二組は北朝鮮で結婚、それぞれ三人と二人の子供がいる。曾我さんは元米軍兵士(62)との間に二人の娘がいるが、一緒に拉致された母親のミヨシさん(当時(46))の消息は不明。



羽田空港に到着し政府チャーター機を降りる浜本富貴恵さん(手前中央)、地村保志さん(同右)、奥土祐木子さん(中央左)、蓮池薫さん(同右)、曾我ひとみさん(上)の拉致被害者5人=15日午後2時33分